WASON
HQ
1104
J74

驛遞局認可

Feb. 1887
2052

明治二十年二月十九日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送稅

第五十貳號

東京　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 52. FEBRUARY 19TH, 1887.

第五拾貳號

EDITORIAL:—Mother's Responsibility in New Japan.

LEADING ARTICLES:—Mr. Shimada's Address before the "Christian Women's Temperance Union"; Voluntary Marriage, by Senator S. Nishimura No. III.

MISCELLANIES:—Scope of the Fine Arts as the term is Accepted in Japan, by Mr. Suyematz Kenchio; A New Mother: A poem translated from the English of Miss Procter: No. II; Friend of School Girls: No. II.

CRITICAL NOTICE: Mr. Y. Takahashi's "Ri-yen no Akebono" (Dawn of the New Dramatic Plays); Mr. Y. Iwamoto's "Onna no Mirai" (Women of Twenties Century).

BIOGRAPHIES: Mrs. Mary Washington.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社說　母親の責任

●論說　嶋田三郎君演說（開化に際する婦人の心得）筆記○男女相擇の說（西村茂樹君）（三）

●叢話　美術と云ふ語は英語にて所云るファインアーツと云ふ字より意味の廣き事（末松謙澄君）○やさしき姫の物語（三）○女學漫錄（母親の言葉の重からぬ事、女の領分）

●批評　高橋義雄君譯梨園の曙の評○巖本善治譯女の未來の評

●佳傳　ワシントンの母○ゆりか物語の圖

●寄書　積年の習慣を破るべし（二）（佐々木とよ）女子勉學の說（久野しげ）音信の義務（松田みち）じやがたら文

●新報　十六則　●廣告

●珊瑚の玉　（第廿一回）

人倫の交り戀の心より出でざるときは仁忠慈孝柔和愛敬その信ことゞく情なし親の子を思ふ心死なんと覺悟したる心この他は誠なし此の誠心戀慕より出でゝ戀情なき時は不仁の君に忠を致すものなく又不慈の親に孝を盡すものなし遠くは顏淵が吾猶能せんの詞近くは右近が忘らるゝの歌たもひやるべし古歌に戀せずば人は心のなからまし物のあわれもこれよりぞ知る（雲萍雜誌、柳澤淇園）

○佛の哲人パスカル曰くクレチパッラの鼻にして少く斜なるか若くは平扁なりしならばアントニーが戰亂は恐く之あらざりしならんと蓋し男女の愛情を濫用して痴となり遂に釀成したる弊害枚擧に遑あらずかの希臘の美姬ヘレンを取回へさんが爲に希臘國王が勇將猛卒を驅つてツロイの都城を襲擊せしより羅馬の猛將アントニーが埃及の女皇クレチパッラに深戀したるより爭端を開くに至る迄の間に起りたる無數の戰亂は概ね皆此一片の情焰を制止せざりしに因る

○セクスピア曰く躰の軟弱よして只滑なるは勞働に不可なり而も行の滑にして心情の軟かなるは德多し男子と女子との世に立つや當に如此なるべきか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第五拾貳號
明治二十年二月十九日

●社說

○母親の責任

昔し第一世ナポレオン嘗て大に慨歎し佛國の衰へたるを醫やし復び之を强國となさんには當今先づ賢良の母を得ざる可らずと云へり吾人は今ま我國現今の形狀を察してつら〳〵後來の勢を慮ばかるに密かに亦た同樣の歎なき能はず深夜案頭に國を憂ふるの末は常に此感あり奮然として吾人の責任の甚だ大なるを覺悟するもの也

遠く顧みるに我日本人民は終始人眞似の國民なり先づ唐代の文物に眩らめきては上下只管に中華に倣はんとを望み詩文器具一に彼土の風に化したり此習ひ性となりて万事只だ採用の主義に則りたるが故に近世一度び西國の文明に接して其華美なるを觀ては驚服の念一方ならずたゞ之に倣ふの遲からんを怨みて舊習を改むるの速なると猶ほ弊れたる靴を脫するが如し惡を棄てゝ善に移るの風甚だ美なるが如しと雖も苟くも國家盛衰の跡を鑑みて遠く慮るものは密に慨歎する處なきを得ざる也抑も移るとの速なるは亦守るとの固からざるものなり故に吾人は必しも淸人が今尙ほ豚尾寬服にして古聖人の道を誇るの愚を稱するにあらず反て其頑固陋昧なるを悲んで憫愍の思甚切なるものと雖も然れども大凡そ一國民として其國躰を維持せんと欲する者は多少斯る保守の力なかる可らずと信ずるもの也故に又吾人は必しも漢學者が今尙ほ言を孔孟にし行を唐虞にして土階三等の陋屋に住ひ朝に簞食瓢飲して夕に太平樂を歌ふの愚を賞せず況んや天照太神を特殊の先祖と崇めて自ら神の子孫なりと誇り八百万の神々に大和魂を捧げて夷狄神洲を穢がすと慷慨するかの頑陋なる和學者を賛せざるものと雖も然れども大凡そ一男子として其信奉する所に固着する熱心は多少此邊の心膽なかる可らずと信ずるもの也かの南洲が西洋料理の食方に不案内なるを誇り李鴻章が應對に英語を用ひざるを高しとしビスマーックが佶屈たる獨乙文字の改正に不同意なる大抵斯樣の味ある佳話として一笑すべきものなるべし

然るに吾日本國民惣躰の氣質は槪ね此類の餘力を存せずたゞ保守の念に乏しくして急進の弊に陷りやすく沈思默考輕しく動かず一び動けば亦止まざるの勇氣甚だ少うして蝿に怒り蚊に慷慨する粗暴輕卒の風尤も多し之を以て歐米人の好意或は

得べくとも歐米人をして曲げて吾等の主張する所に從はしむるの力なく西洋人をして猿猴急に進化したりとの感を起さしむるに足るとも之をして肅然つゝしむ所あらしむるの行あるを得ず尤も歎息すべきと云ふべし。思ふに如此き我邦民の氣質は之を改むる決して容易にあらずたゞ其元に反りて新に剛毅英邁の新男兒を造り出し以て日本移傳の惡習を改革するの工夫を措て他に良方なるを見ざる也

然るに斯る新男兒を造り出すの工夫は啻に敎育を隆んにし文物を起す等の方法を以てのみ盡さるべきにあらず必ずや先づ賢良の母を得て胎内に既に英雄の種を作り家庭に早く豪傑の雛を養ふの策を爲さゞる可らず然らずんば到底其効あるべからず維新以來學校の敎育具はらざるにあらず文書器物の供給足らざるにあらず西洋よりは有名の學士渡來して進りに文明の花を贈り本邦の英才は多く洋行して續々彼地の寶を携へ歸ると雖も我日本人民の本質に左程の變化なく寧ろいよ〳〵輕卒にして益す精神を失ふの損に陷るものは必竟玆に未だ賢良の母あらずして其元を養ふの力に乏しきが故なるべし。特に何如程に西洋の文物を輸入したりと雖も幼年既に舊來の惡癖に染りたる者は其此等の文物に依て利するの趣恨らくは只だ着燒刄の歎あるが如し皆な心に思ふなれども肉躰弱はき也との苦痛を經驗して遺傳の舊習に新入の光を消すもの滔々として之なり故に眞正に西洋の文物を我日本人民の躰内に輸入して深く開明の恩澤を布かんと欲するにも亦先づ賢良の母を得て之をその初に收得するの工夫尤も大切なるもの也

吾人世の傳記を讀むに古來の英雄豪傑は大抵賢良の母を有せりナポーレオンのレーチア夫人に於けるワシントンのマリー夫人に於けるカーライルが尊拜する諸英雄の其母に於ける或は周公孟子歐陽修、ギンギスカン、タメルランの其母に於け或はモザルト、バーンス、ジョンソン、ゲーテ、スカット、バイロン、ラマルチン、若くは、エスレー、アウガスチン、グレゴリー等の其母に於ける實に枚擧するに堪ざる也故に我日本國の母をして悉く此類の母たらしめば玆に亦此類の英雄豪傑を造出する必しも難きにあらず日本人民をして玆に一新せしむるも亦敢て望可らざるにあらざるべし之を以て吾等の姉妹は必しも身自ら文武の權を握らざれば則ち不可なりと覺悟する勿れ寧ろ優たる其手を以て王侯將相の苗を撫育し之をして他日社會に芳香を發せしむるを希望すべき也果して斯の如くなれば日本人民改造の權は一に婦人の手にあり吾人はこの賢良なる母に依

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りて現今の時弊を醫やすの外他に良法の存せざるを歎ずるもの也

●叢話

○日本にて美術と云ふ言語は英語のフハイン、アーッと云ふ字より意味の廣き事　末松謙澄

左は羅馬字雜誌の爲に素と羅馬字にて認められたるを其儘請ひ得て和文に譯したるなり

近頃我國にても美術と云ふ言語は書物にも多く見え話の上にも多く用いらるゝことなるが此言語の原語は英語にてフハインアーッと云ふ。然るにフハイン、アーッと云ふ言葉は主に目に見る所の術の美なる即はち美くしきものに用ゆると思はる精く言へば英語にてフハイン、アーッと唱ふるは彫刻ものなどを指し其外の者は術より出でたるものにて美くしき者も只だアーッと唱ふるなり。日本にては然らず美術と云ふ言葉は繪、彫刻物、など目に觸るゝ者のみならず心に於て奇麗とか美くしきとか感ずる術即はち英語にて只だアーッとのみ稱ふる所にも用ゆるの常とはなれり。勿論日本にては英語にてアーッとのみ稱ふる所に術とのみ云ふては其意味の全からざるとある故え美術と云ふ字の境目を廣くするとにて何も批難すべき所はなし。然し乍ら言語のみに拘泥する學者などは之を批難するものなきにあらざるべし。余もアーッと云ふ字を美術と稱えしとも屢ばあれば注意かたぐ此字の解釋を下し置く

○優しき姫の物語　（二）

(廿五)せむるおもひの、あればなれ、たわむれあそぶ、稚子たちを、
まもる戶のくち、にはのかど、かなしきさまに、身を見せて、
日にくうれひ、たちたまふ。

(廿六)をどろかさじと、なぐさめつ、なぐさめんとて、したしめば、
母をそろしと、をづるなる、稚子等のうちの、チルガさへ、
いだかれしとて、なきたまふ。

(廿七)わこらをいさむ、よしもなし、寢つくる折の、よなくに、
きかすわらはの、ものがたり、逝きつるひとを、おもふべき、
稚子等の愛を、ませしとて。

(廿八)たゝおやしきは、アサのとの、重くかなしく、見へませし、
むかしのさまに、引きかへて、いまは日にく、わかやぎて、
たのしみふかう、見へたまふ。

(廿九)稚子等の愛を、ひきよする、つとめはわれに、あればとて、
母のなだめに、ちゝぎみは、せめんよしなく、わこたちの、
なすがまゝには、をきたまふ。

(三十)はゝはひたすら、つとめてぞ、なつかん日をと、まちながら、
むかしのひとの、をもかげの、メーきみ見れば、忍ばれて、
靜けきこえも、ふるえけり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(三〇)よしわらはをば、はゝとこそ、よばぬそあたも、いとせめて、まことのはゝの、ためしもて、マルガレットと、よびてよと、メーきみいだき、かこつめり。

(三一)耐へてし忍ぶ、はゝぎみの、やさしきまことゝ、効能もあし、ゆきつるひとの、おもはれて、こゝろをこゝに、とゞむらん、わこらはあほも、わだにして。

(三二)かくて三年は、すぎにけり、時しもひらく、戰端の、世はおび〳〵と、さわぐらん、あげきゝ母の、のぞみあき、あみだの眼にぞ、知られける。

(三三)出陣のこと、さだまりて、淺殿ひとり、やみたまふ、はゝとわこらを、へだつある、たよはいやまし、ふかゝらめ、われあらざらん、そのうちに。

(三四)かどでのときは、近かづきぬ、やむるこゝろは、いやましぬ、ある夜わこらと、もろともに、夜のいのりを、さゝぐれば、かたへにとのは、たちたまふ。

(三五)もろ手あはせて、しめやかの、幼さな言葉に、述べたまふ、すがたあいらし、振るかみと、ましろの衣は、火にてりて、あしははだかに、あらはれぬ。

(三六)アーメンとのみ、をはるなる、わこらをとのは、まちあがら、かたへによせて、聽ねかし、ちゝのこゝろの、はるゝまで、グードナイトを、のばしてよ。

(三七)チルがはうでに、いだかれて、アサは御肩に、よりそへば、メーはかたへに、ひざまづき、をとあしやかに、きゝたまふ、ちゝのみことば、今日ぞ知る。

(三八)「稚子等きけかし、すぐるとし、わこらの母は、はるかなる、きたのくにより、來ましてぞ、いまはた知らん、かのはゝの、めぐみをうけて、住みたまふ」。

(三九)「このはゝとしも、やゝたけて、まことの愛の、ふかければ、わこらのはゝは、幼氣の、かあしさ去りて、たはむれつ、學びのわざも、すゝみけり」。

(四〇)「わこらの母は、メーのごと、よはきたちにて、居たまへば、やさしくつよき、かのはゝは、よろづのことの、たのみにて、うきはのがれつ、たのしみぬ」。

(四一)「あひそめにける、父が目に、ふたりのすかた、いづれかゝ、かみふりたてゝ、はぢらひつ、はでやかに見ゆ、わこのはゝ、しづけく重き、かのひとゝ」。

(四二)「たゞかなしきは、おやにくに、ひとつの愛を、ともにして、つたあきちゝを、思ふなる、かれよろこびて、これやうき、これうしなひて、かれや得ん」。

(四三)「ふたりはしらず、父の身に、マルガレットと、さだめたれ、このよろこびを、あだにして、身にぞあはれを、とりたまふ、かのひとごゝろ、知れもせず」。

(四四)「かのひとさりて、はる〴〵と、たびのそらゆく、故いかに、こゝろの奥の、知れざれば、稚子のはゝすら、うらみけり、ちゝはもとより、うたがひぬ」。

(四五)「かのひとゆけバ、わこのはゝ、今はわが身の、つまとあり、マルガレットが、のこすとて、うけたるしあい、わこたちの、めづるたからの、たぐひかは」。

(四六)（以下五節を以て終る余白なきに付次號へゆづる）

○批評（第十六回）

(16). 梨園の曙　中本一冊（二百卅二頁）定價六十錢　發兌所　東京本町三丁目　金港堂

此書は一名を西洋演劇脚本と稱し高橋義雄君が四種の西洋脚本を反譯ありたるものなり第一洋琴調子筮、第二戀衣乾ぬ間の渚、第三ガイフオークス地雷火奇譚、等何れも面白けれども素と本誌の上に批評すべきにあらず但だ第四なる女權擴張情理岐と題する一篇は少さか茲に一言せざるを得ず。此篇原名をWoman's Rightと云ひ彼國にて女權擴張に盡力する或種の婦人の心情を穿ち盡せり抑も近世の婦女にして其同性の權力の伸張せざるを慷慨し筆に口に堂々之を論じて大に其事に盡力するものは素と多く正義の女流にして吾人其志の高尙あるに驚服するの外なしと雖も世上或は之を非とし之を以て正當の進路を誤りたる偏屈婦人の行爲と認るものあり如此きは亦更に一向に偏したる批評にして取るに足らざるが如しと雖も窃かに其實際を窺ふ時は不幸にして亦同感の歎あきを得ず蓋し吾人が所云る正義の女流中には夫人にして女權の擴張に盡力するもの固より多し例へばかのワシントンの夫人マルタ佛國の女丈夫ローランドを初として近年のミル、フホーセット、兩夫人の如き若くはシマービル、ゼームソン、セニナル、グロート、グレー、アンダルソン、バットレル、の如き皆あ人の妻あり又此流にハンナモア、ナイテンゲール、マルチノウ、カーペンター、デビース、クラウ、スワンウイックの如く一生單獨にして某孃と名乘りたるもの亦固より少からず皆な優和温雅の德を備へて且よく女權擴張に熱心したるものなりと雖も而もかの愛戀の失望に落膽して突然暗黑の境裏に陷り女德の優雅を失ひて只徒らに過激の説を爲すものも亦甚だ少からぬとあり。此篇は即ち右に云ふ所の最后の種類の肺肝を摘發し且つよく女性の弱點を描出したるものあり妹尾お權が初め

……論者の説を讀み候ていよ〳〵男子を根絶するの必要を感じ候男子は亂暴なる壓制者に御座候羊狗猩熊等の獸類の如く鎖を以て之を繫ぎ次第に之を馴らす時は我々婦人に對して從順に可相成候………

など云へる書狀を壯快ありとし姪の婚姻を望むに對して

男に身を任せるなどとは誠に恐ろしひ事だ………婚姻トェ實に愚痴で狂氣だチ………

など云へるが一度び昔日の愛郎肱田才助に邂逅して乍ちに其品行を變ずるの風抱腹絶倒の至にして尙ほよく其實際に適へるを歎ぜざる可らず。然れども人もし西洋の女權擴張家を以

て皆な此な權の類なりと認れば大なる誤なると共に世上尋常の女權擴張家は亦之に鑑みて其精神の出る所を自省せざる可らず。右時論に切要の點あるを以て遂に如此く細評するものなり

(17)　女の未來

此書は米人ケレー氏著二十世紀の婦人と題する者を巖本善治が抄譯したるもの也例により之を茲に批評するを得ず但だ其小引の一分を左に掲げて是非の敵を讀者に委す

中本一冊(百十二頁)定價三十錢　發兌所　東京神田雉子町　輿論社

一　東洋の女教既に廢れて西國の風習將に行れんとす今日は恰もこれ日本女風維新の機なり此時に當り西國の風習を輸入せんとする者は先づ其の風習の善悪を便知せざる可らず而して之を便知せんには先づ其風習の彼國に於ける前途何如を豫察するを要とす吾人が今ま此小冊子を譯成するものは實に之が爲めなり

一　此書西國に於ける女風の變遷を推して其未來を卜するに當り論を職業、教育、權理の三點に分ちて細密に考査す論旨固より未だ可ならざる所あり吾人亦大に同意する能はざるものありと雖も其女風變遷の傾向を説くの段に多く實際を盡せりと云ふべき也

○女學漫錄 (二)

厭谷山人

何故に母の命令は重からざるか

獨乙の學者エアメ、パウル、リヒテル曰く幼兒の耳は決意の聲と腹立ちたる聲とを容易に區別し得るなり母親が父の言語の斷乎として動かざる狀に倣はんと欲するときは其聲宛かも腹立ちたるものゝ如くならざるを得ず父母の命令に輕重の差を生ずる理由は蓋三つあるなり第一は已に說き示したる如く父の聲は決意を示し母の聲は怒りを示す第二父親は勇士の如く帝王の如く一言の勿れを以て兒に臨めども母親が一つの勿れを言はんとするには句法章法事繁くして嘆息問難の法を用ゐざるは稀れなり古來より婦人にして犬に藝を習はせ得たるものは多く聞かざる所なり第三父親は母と異なりて己れの一回言ひ出でしことを改むること稀れなり此の說敢て盡く金玉と爲すべからず左れど亦大いに注意すべき所ありと覺ゆ

女子處世の領分

日本に在る亞米利加英吉利等の士人等は民權自由の盛んなる邦國に生れたる故にや其語氣自ら平等主義に基くもの多し其の女子の教育を論ずるや婦人に政權を與ふるや否など喋々す

る人民だけありて婦人にも隨分男子同樣に學術を敎え才智學力ある女は博士ともなり著述家ともなるべしと論ずるものありとか聞きぬ今日の場合にてはゝゝゝ政權云々の事は余の知る所にあらねど英米の士人が其の本國においてもまた日本に來りても常に主張する女子敎育論と婦人處世の領分とは我々の大いに贊成すべき所多し誠とに我國婦女子の良友と稱すべきか然れども怪しかる主義を傳ふる文明國の人とは即はち獨乙の學者輩ならん民權を笑ひ自由の說を排斥して專制壓抑の主義を贊揚するものは獨乙の人なり貴族的の分子を散布するものも獨乙の人なり吾邦の文學藝術獨乙に摸倣するに至らば文章、の躰裁小說の精神大學の組織等多くは貴族的に成り行かんとす余は獨乙の碩學鴻儒を欽仰し其の有名なる著術を愛讀し其の敎育の深遠なるを景慕するものなれど獨乙の文學が貴族的にして全く平民主義に反對するものなるが如きに至りては誠に用心すべきことなりと謂はざる可らず就中獨乙人の女子敎育論は最も感服し難き所なり彼のスピンヂル氏の說く所は基督敎主義に基きて稍見るに足るものありといへども矢張獨乙人口氣として婦人の領分は家政にあり學術は其の務むべき所に非ず婦人の心は感情を最とす智識の發育は其の長所に非ず婦人をして高等なる學事に從事せしむるは其の天然に反對するものなり云々其言全く英米の士人の說く所に反せりと謂はざる可らず獨乙の如きは男子同士の權理にても平等にせぬ國柄故男女の關係よつきて斯る議論あるは怪しむに足らず去年亞米利加にて女子中に學位を授かりしものありし時有名なる「ハーペル」雜誌記者は(九月)之を評して曰く文明の程度を驗知するは婦人の地位を見るに在り野蠻人民の中に在りては女子の有樣奴隷に異ならず基督敎國に在りても彼の所謂暗世と稱へし頃は婦人は玩弄物に過ぎず良し女菩薩の如く尊敬されたることあらんも此は其の美を喜び色を愛したるに由るのみ道德の光輝愈盛んに自由民權の主義勝を制するに至りて婦人の地位も漸く正しきに復し之に其の才能を發達するの機會を與ふることゝはなれり……………或人曰く婦人に高等なる學術を授るは其の天性に反對するものなりと然れども婦人處世の領分は男子の臆度及び我儘なる命令に由りて定まる者に非す其の自然の發達に由りて定るものなり論者か其天性をして自ら其の領分を定めしめざるは大いに不可なり視よ音樂の天性無きものは如何なる場合にありても音樂に從事して其の天性に反對し其の一生を誤まるの憂慮無かるへきなりまた盲人

の給を學ぶ氣遣もあること無し學問若し婦人の天性に反對せば之に從事して一生を誤まるもの殆ど稀れならん何ぞ天性をして自ら其の區域を定めしめざるや云々

○嶋田三郎君演說(開化に際する婦人の心得)

二月八日東京婦人矯風會に於ての演說筆記

今日此席に於て私に何か考を演るやうにと御照會がありましたが如何なる事を申しましたら此會の旨意に適ふにや自らも迷ふて決定致し難う御座りました。然し自分が一時間なり四十分なり御斷致すの間に於て、アナタ方に幾分の益があるや否や恂に覺束ないと思ひます。併ながら幸に天の祐けに由て私の考がアナタ方に幾分の益があらば之を天恩と感ずるより外はありません。且つ私は久しく咽喉の病に罹て居りますから聲を出す事は醫者に禁じられて居りますし旁〻餘り永くなく致しますが、既に先日も大抵宜からうと存じまして東京近き某所へ往て演說を致しましたら再び咽喉の病を惹起したのでありました。今私の考を述べましても、お解りにくき所も多分にありませうが斯の如き譯でありますから切に宥恕あらんことを望むのであります。

扨此席に於て如何なる主意を以て演るが宜いかと考るに、珍らしくして且つ新らしき題よりは寧ろアナタ方のオ考に對して聊か自分の思ふことを述べます。

凡て物の考と云ふ事は六ケ敷もありませぬが之を其考の如く實際に行はんと謂ふに至ては甚だ六ケ敷ものです。併し每々同じ事を思て居れば遂に其思ふ事を實際に行ふ事を得るの位置に進む事があらうと思ひます。今日に於きましても少しく物の解りし人に人間は平等の位置に進みたき者と斯く一言申さば誰も之を不道理と謂ふ者はありますまい皆承諾するでせうが。然し此事は歐羅巴でも能く實行せられないので女の權利の進みたる米國に於ても種〻議論のある所ですが、前に申す如く考の通りには行はれないから之を行んと盡力する人が多くなれば自然に行るゝ樣になるのです。語を換て申せば人々が既に可と認たる多勢の力を聚れば思の外に其事の易く行はるゝものと信じます。故に私は又如何して行れ易きやと考るを以て必用であらうと思ふ。其所で先第一女の位置を改めなければならん自ら社會に立には如何なる方を以てすべきか教育は固より大切であるが何ウ云ふ工夫を施せば宜しいか餘程能く事理に通じたる人にても大層說が違てまいります。

是に就て自分の考を簡短に縮めて申せば確乎と目的を立て其目的ハ充分高からしめ一度進みし足は再び後へ戻らぬ樣にするが必要と思ひます早く申せば我國現在の有樣を引直して歐羅巴諸國の如くなるを望むのです其目的をして現在の歐羅巴諸國の如くならしめば之を達する事も難くはあるまいと思ふ故に充分に箇樣の目的を有しなければならぬ此望を持たからとても之を達するに一概に充分なる事ハ六ヶ敷が徐に進んで竟には達すると決心しなければならん第一に教育の面目を改め歐羅巴流儀を男女の間に施して世の中を一變するが必要であります

元來何が歐羅巴諸國の雛形であるかと云ふに規則を以て制してもナカ〱外國の眞似をして其通りに行ふは難きとであります今日本の有樣を觀るに平生の飮食より親子兄弟の間柄に關係する事等總て歐羅巴流儀に引直すハ甚だ六ヶ敷い第一に六ヶ敷き例を申せバ親族の組立に於て歐羅巴と日本とは各其流儀を異にして居る元來日本は支那と同じく服從と云て女は男に向て服從するを基にして家に居れば親に從ひ嫁しては夫に從ひ年長じては子に從ふと其從ふを基本として組立てある歐羅巴にては先づ平等の主義を立て夫婦の關係抔を例へバ世界に最も親しき友達は夫婦なりと箇樣に說てある既に友達と爲て居るものでありますから歐羅巴の流儀と日本幷に支那の流儀とは大に違て居るのです東洋にては親子と雖も一所に居る以上は子ハ自分の權を持てはならぬ女の子は自分の所有物ハないと禮記と云ふ書物に載てあるが此教が基です故に歐羅巴流儀を教ゆれバ其目的が今と違て親子夫婦の間に於て種々の變化を起して參ります

斯の如く教が違て居るからドチラを採て宜しいかなれば無論平等の上に運動するが宜しいと申すでありませう併しながら古より今日まで傳へ來りし者を俄に明日から悉皆取替て今迄のものはソッチ除けとすれば今迄の人に取ては一方ならず不自由を感じませうが此の不自由を感ぜしめざる樣にするは人間の義務であります凡そ人たる者は自分の利益を割て人と與にするハ當に人の爲すへき職分であります況して自分の愛育せられたる長者へ不自由を與へて芝居の幕の變る如く前の者ハ殘らず廢して改正しなければならんと云へば是迄愛育を受けた長者ハ如何なる不自由を感じませうか斯の如く困難なる我邦社會の狀況を識て居る者にして此男女の間を折合はせんとするは如何にも困難の位置に立て居る者と思ます（未完）

○男女相擇ぶの說（三）

西村茂樹

本邦中古の事ハ姑く差置き三百年以來儒道の盛んに行れし時代の夫婦の交際の狀を考ふるに其嫁娶の法の爲に夫婦の不幸を來したると云ふ證迹を見ず凡そ夫婦の間の不幸ハ離緣を第一とし不和を第二とす嫁娶離緣に付きての統計表なきを以て今其如何んを知るべからずと雖ども歴史中に記する所の諸の事迹に由て推考するに別に離緣の數の多きことを見ざるなり夫婦の離緣と其不和とのあるハ皆其夫婦たる者の性質に由ることにして其選擇の法に由らざるなり則ち道德に厚く人情に深き者ハ夫婦の間常に和熟し喧爭することなし況して離緣することハ聞かざる所なり道德の敎なく人情浮薄なる者ハ夫婦の間に口論絕ず動もすれば離緣を爲すことあり又他の事故に因りて止むことを得ず離緣する者あり則ち或ハ其婦たる者其父母の意に協ハず或ハ夫たる者他の婦人に暱び以て妻の妬忌を起し或ハ妻たる者淫行あるの類是なり此の如き惡結果ハ父母の選擇するに由りて增すことなく男女自ら選擇するに由りて減することなし西國の法ハ固より男女自擇ぶ者にして論者の甚善しとする所なれば其夫婦ハ常に和熟し忿爭離緣等の事ハ絕て無きことなるかと問ふに決して然ること能ハず其夫妻忿爭する者ハ固より多くして離緣する者も亦少なからず往年法蘭西の法律にて離緣を嚴禁したりしに夫婦の甚しく不和なる者ハ或ハ其婦を殺せし者ありと聞けり然らば父母之を擇ぶも男女自ら擇ぶも其結果に至りてハ敢て著るき差異を見ざるなり畢竟夫婦の不和なるハ大抵ハ結婚の後に生ずることにて或ハ夫婦の氣質相合ハずとか或ハ夫の性質殘酷なるとか或ハ夫婦の一方に淫行あるとかの類より起る者にして最初に年若き男女が何程自身に擇びたりとも決して後來此の如き不幸の生せざらんことを先見すること能ハざるなり既に之を先見すること能ハざれバ男女自擇ぶハ唯一時の情欲を遂ぐるまでのことにして必しも生涯の幸福を得るの益を爲す者に非ざるなり西國の婦人ハ其敎育を受くること男子と大抵相同じく且つ少年の時より交際の途もありて頗る能く人情にも通じあれバ男女自ら擇ぶも或ハ可なるべきの理あれども本邦の婦人の如きハ其敎育を受たる者ハ甚少なく又交際の法も西國の婦人に及バず然るに舊來の習慣を棄てゝ西國の風に倣ハんとするハ所謂鵜の眞似する鴉にして甚た危殆なる次第なりと云ふべし

現今本邦にて夫婦嫁娶の法と其結果の如何んとを考察するに大に論者の言ふ所に異なる者あり今夫婦嫁娶の法の上より之

を言ふ時ハ全國の人民を以て禮儀あるの家禮儀なきの家の二種に分つべし禮儀あるの家ハ華族士族(上等の分)及ひ農工商の大家にして禮儀なきの家ハ其以下の平民なり人口の多少を以て言ふ時ハ禮儀なき民ハ禮儀ある民に十倍すべし甲の民(禮儀ある民)の嫁娶の状を見るに(其中大に異同あれども大躰に付き言ふ)其子女の爲めに婿婦を求むるにハ先づ父母之を發案し之を媒妁に謀り父母の心に於て可なりと思ふ者ある時ハ之を子女に謀り其意を問ひ不同意なきを證したる上にて嫁娶の談に及ぶなり或ハ父母其子女をして婿婦を擇バしむる者あり又ハ子女自ら擇びて之を父母に請ふ者あれども是ハ甚た稀なるとあり要するに論者の言ふが如く子女の好まざるを强ひて嫁娶せしむるとの如きハ之を聞かざるなり又乙の民(禮儀なき民)ハ父母の命を待つとなく大抵ハ子女自ら相擇び媒妁の如きハ唯名義にのみ之を用ひ或ハ男女私に相奔る者あり甚しきハ既に私通し婦人懐姙するに由り已むとを得ず夫婦となる者あり此嫁娶の法よりして言ふ時ハ甲の民ハ制抑を受たる者にして大に西國の法に異なる者なり乙の民ハ自由を得たる者にして西國の法に近似せる者なり然るに其結果の如何を見れバ甲の夫婦ハ大抵生涯相親み父母の其婦を惡む等の事なき間ハ中途に風波の起ると少なく随つて離縁する者も甚少なし乙の民ハ婚姻の初ハ相親愛するが如しと雖ども暫時にして互に我儘を生じ或ハ忿爭し或ハ嫉妬し其終を全ふする者少なし近年本邦(殊に都會の地)の民ハ離婚の數甚多く殆んど結婚の四分の一に至るハ有志者の常に歎息する所なり此多數の離婚者ハ何の種類の民なるかと尋ぬるに大概ハ乙種の民卽ち自由に相嫁娶するの民なり(未完)

●佳傳

○ワシントンの母

米洲合衆國最初の大統領ゼウヂワシントンの母をマーリー夫人と云ふ素と名家の娘なるが嫁して後ち夫早う死しぬ左れバゼウヂ十歳の後は全く夫人の手一つにて育てたるなり夫人平常嚴肅にして万事の紀律甚だ正しければ其子に教ゆるとも亦自ら嚴しく随つては能く之に從順の徳を得させたり故に後に至りてワシントン十三州の大統領となりたる時すら尚ほ夫人が常に申されたるハ

妾は汝の母にして汝に生命を與へ汝が媼となりて汝に歩みを教へたり妾が母たるの愛汝の心の愛を養成し妾が勢威汝

の精神を矯めたり故に汝の成功汝の名譽の何たるを問わず
上帝の御次にハ皆其源を妾に歸せざるべからず

とあり然るにワシントンも亦た甚だ夫人に敬服して深く之を愛慕し終に至るまで其言葉に從順して萬事の敎を乞ひたり

ワシントン米軍の大將となりカムブリッヂに在る軍兵の許に至るに先ち夫人を舊住の地よりフレデリックスバーグに移して危難の患なきやうに斗らひたり左れば夫人は獨立の戰爭中大抵は此地にありてその所の婦人共に女の心得を敎へ勝敗の變化しきりにして報告の聽ゆる每に騷動する母妻達を靜め吾子等國の正義の爲に盡力せん限りハたとひ妾等の憂苦もと自然の情に出るとも決して左樣に心遣ひすべきものにあらずとハ常に敎悔しぬ

ワシントンの兵デラワルを橫ぎりたるは米軍を失望の極地より救ひ出したる非常の功なれば數多の人々は之を聞くと其がまゝ連りに夫人に慶を呈したり夫人は最と溫かに返辭してゼウヂが斯る大切の御役に立ちたるとの喜ばしきなど靜かに申されたるが中にハ捷報の手紙より披讀して甚しくワシントンを賞贊するものなどありしかバ夫人は其人々に告げて君達そは余りに賞め過たる御辭なり然しゼウヂは妾が敎へ置たる事々をよも忘れハ致すまじ彼兒は何如にかゝる名譽を受けたりともよも忘れハ致すまじと操返して申されたり

斯て七年の戰爭の後ち米國にいよ〳〵新獨立を布告して正義の軍に全勝を獲たる時ワシントンハヨークトンより兵を卒ひて歸り來り整々たる軍兵どもの眞中にて馬より下り使を母の許に遣はして何時御目通を許さるゝやと伺はれぬ此時軍のかざりハ目に見渡らず喇叭の聲も耳にひゞかず切てもの旗じるしの風に飄ふさまも見へずワシントンは只一人步ちにて母の許へと趣かれたるに夫人亦只獨り居まして老の手に家內の仕事を爲して居られけるがゼウヂ歸れりと見て喜ばしう之を抱きしめ吾兒よ變はらで健やかなりやとてつく〴〵と顏打ながめ喜ばしき大事に心配して面に皺の寄りたるを認め乍ら只だ舊き知人の事又は古しの事など談らひつゝかの戰鬪の名譽につきてハ一言だも述べざりしとなり（未完）

○ゆりか物語（七）

今回は右全傳中最も慘を極むるの章なれども余白なきに付次號にゆづり只だ左に圖を示して趣の大意を現はす

Must I, with Attentive eye, Watch her heaving bosom Sigh?
I will do so, when I see, that heaving bosom Sigh for me.
Sheridan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

● 寄書

○積年の習慣を破るべし（二）

東京婦人矯風會員　佐々木とよ

積年の習慣己の周圍を取卷く時は其見る物聞もの皆其僻見を抱かざるなし隨て己が五官の感觸も失亡して全く盲啞聾痴の境界に陷ると前編に之を述たれバ今此證據を演んと欲す

昔し彼の源渡の妻袈裟女は容貌頗る美なりしかバ或時遠藤盛遠之を覦ひ見て其母に迫り白刄を閃かして之を脅かし云ふ袈裟を我に與へよ然らずんバ汝を殺害せんと母恐れて之に從ひ此事を泣て袈裟に語りたるに袈裟思ふやう若し此言に從ハざれバ母を殺さるべし又此言に從ハヾ不義なり寧ろ吾身を殺すに如かずとて濡髮命を授けたり此事につきて世にありふれたる草双紙の類ハいろ〳〵の事を巧みに造り做して連にもてハやすと雖も畢竟の大意は婦女の狹き量見より母と夫を安全に守らんと欲するに過ぎざるべし此事や昔より貞婦の鏡の如く學者賢人も賞賛する所なれども素と大なる誤なり能く之を思へ凡そ良人ある婦人を己が武者風の勇を恃んで母を脅迫し白刄を閃かして奪ハんと欲するハ持凶器强盜にして强姦律を犯さんとする罪人に均しかゝる大惡人に迫られたらバ其良人に謀りて之を擒にすべし又は力敵ハじと思ハヾ官に訴へて保護を受るも又朋友從僕などと共に謀りて之を囚るもよし是非止を得ざる場合あるに至らバ匕首にて之を刺し通すも宜かるべし良人ハ何の爲のものぞかゝる非常の節之を良人に謀らずして一命を捨るとハ專斷の太甚しきものと云ふべし到底死覺悟ならバ盛遠を刺透すべし若し事を仕損じて却て盛遠に殺さるとあるも自ら準備して殺さるゝには優る万々あるべし

又一步を退いて後日の事を思ふべし袈裟己を殺したりとて何とて母と良人とをして喜悅せしむるの理あらんや反てこれ無限の悲哀を與ふるものなるべし卑屈にも程こそあれ勇なきも程ぞある三人寄れバ文珠の智慧も出づべきに生きて身を全うする謀事なく死して母と良人とを慰むるともなきハ卑屈にして一身を專斷せしと評する外にハ一言の語もなき次第也

退て袈裟の心中を推察せバ至極愍れむべき事もありしと思ハるれども大躰ハ左の如く思ひたるならんか盛遠ハ腕力者なり若し此言に從はざれバ母は殺さるべし又之を夫に告げたりとて不甲斐なき弱もの丶渡なれバ申す丈け無益なりとて偖てハ身を殺すに至りたるもの歟如此ものなれバ最も不屈至極の女なりと云ふべし

如此にして身を殺したるハ一身に於てハ固より益なく世間に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

向ては狹量にして身命を輕んずる惡風俗を殘したりと云べし然れどもこれ亦積年の習慣によるか婦人は已を得ざる場合には身を殺せば則足りぬと云へる覺悟ありたる事も判然たり前第一編に積年の習慣は人命を傷賊し一世も皆舉て人命を殺事也と云るは此等の事ぞかし是れ習慣の一身を殺したる例なり又一身の誤謬は社會公衆の害惡となるも却て孝心と心得婦道と心得居ものゝ誤りを說明せんとす何れの年代の事か分らざれども多分百年以來の事なるへきか下等社會の婦女中に行るゝ習慣は其父母兄弟に疾病あるか又は年貢租税の不納ありて之を救ふ術なき時は速かに身を娼妓に落して其窮厄を救ふ事あるが此落籍を以て悲哀の境と思ひ其身の不幸を歎かば宥恕すべきなれども一代の手柄と心得父母を救濟する良策と思ふに至れる我今之を演るも穢らはしき程なり然るに茲に尤も不思議なるは世間に文學を以て任ずる諸先生が此の醜業を營む者を筆誅することを爲さずして却つて某樓の何々は某の娘にして孝心ものなり孝女なりなどゝ賞賛し或は柳橋新誌とか新橋雜誌などゝか云ふ四角張た六ヶ敷文字にて書た書物などに立派に醜業婦人共を褒賞さるゝとは如何なる御心得にや一向合點の行ぬ事共なり乃積年の習慣の中に包み籠られて知らず〳〵下等醜業社會の御仲間と申より外評する語はなし既に世の文學者にして此陋見あり何ぞ能下等婦人中積年の習慣を破て已に廢たる弊風を矯正するの人あらんや

今我曹幸か不幸か此風俗廢頽の時に際會せり婦人の風俗を矯正せんと欲せば先づ世間の輿論を卑陋の地より引揚て高尚の所に推上るにあり否淫猥卑屈の積習を破るにあり積習を打破るは一世を奬勵するにあり是吾矯風會の任する所なり

○女子勉學の說

東京明治女學校生徒　久野しげ子

惟ふに我國の婦女子の如く無學なるは眞に歎ずべきことなり古より一の玩弄品たるに過ぎずして或は禽獸に似たる行を爲し一生を無用に送るの外なく到底一人にて獨立すると能はざりしなり然れども近年に至り世運の日に月に開明に趣くに隨ひ婦女子の敎育大に社會に行はれ現今に至りては行く處として女學校の設けあらざるなし故に奮發刻苦するときは一身の獨立を得るとは元より難きにあらざるなり然るに今日迄の如く只々男子の力にのみ委賴する時は到底女子の權利を伸ると能はず又我國をして富强の國と爲すとも能はざるべし故に女子たるものは勉めて學門を修めて獨立し或は男子と同等の敎育を受けざる可らず此は只一身を安全にし其權利を伸べ能ふの

みならず我日本國は之が爲めに大に富强となり我國人は突然として大に增加すべし此の如くなるときは數年を出ずして我日本婦女子の世に著れんとは難きにあらざる也聊か以て女子勉學の說を爲し以て將來の事に意を注ぐ所あらんとす

○音信の義務

横濱山手フェリス女學校生徒　松田みち子

凡そ萬物の靈たる人類は能く義務を辨知する以上は之を盡すべき責任を有する事は古今を問はず東西を論ぜず皆各人の熟知する處にして而かも道德上の大切なる一部分なり熟々我國近時の女流社會を洞察するに恰も眼前の名利に馳せ深奧高尙なる義務を知らず隨て是れが改良を要求せざるが如し試みに我國女流が競爭を務めんと欲する所を見よ男女交際を爲すべし衣服を改良すべし其他百般の事物細大となく歐米の女風を猿裝し今や文明開化の洋婦人と比肩せしめんとするが如し然して是等の冀望は愚昧なる吾人をして賞嘆柏手諸姉盡力の功を奏し不日東洋の一孤島をして宇宙の間に顯然尊崇せらるべき位置に至らしむるや必せりとの感情を起さしめたり然りと雖も一旦心を靜にし思を平かにし沈默是等の盛事を考ふるに尙不滿不足實に慷慨に堪ゆべき事あり夫れ擬作の花たるや最も美觀を呈すと雖も遠く千里の外に芳香を放つ能はず裝飾の美服を穿てる人形は見る人をして眩惑せしむると雖も感歎賛賞せしむる精神上の淸薰は到底望むを得べからざる處なり抑當今女流輩の卒先して改良する處や益なきに非ず反て我國一般の氣習をして興起せしめ從て文明の境域に進ましめんには大に與りて力あるなり然りと雖も爰に吾人が切望する一事に向ふては未だ何人も各自改良の改字さへ唱へず義務に於て大に欠る所あるは實に遺憾の至りなり吾人は只此の一事に於て改良を加へず義務を盡さゞれば猶擬作の花の如く人形の如く徒らに現然の美麗をのみ欲するものにして馥郁たる芳香を千歲の下に流す能はざるのみか凡ての盡力も烏有に歸し却て文明の進步を妨ぐるに大なる關係あるべしと思考せらるゝなり偖此一事とは何ぞや即音信の義務なり音信の事たるや些細にて顧みるに足らざるものゝ如しと雖も決して然らざるなり內は自巳の智德如何を著はし外は頑陋墨守或は悲歎失望の人をして道德に或は活潑に導き得るなり乞ふ姑らく之れを論ぜん彼の佛帝ナポレオン第一世の聘を肯んせずして爲めに本國より追放されたるマダム、デ、スタルを見よ彼の書簡は彼の品格如何を著はし巴里都會に位置を點し文學家及淑婦等をして再び翻て彼に歸せしめしに非ずや彼の耶蘇基督の使徒ポーロの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

書信は彼の熱心如何を著はし卑賤舊守の老少をして眞神の刑罰より脫せしめしに非ずや其他西邦の歷史家は書信を檢して其人の才識如何を審かにする等其論證枚擧するに遑あらず我國に於ても唯一通の書簡を以て或は夫を艱難の内に危險の場合に之を慰め之れを救ひし女流少からざるあり況んや音信は喜憂を共にする友誼上の源泉より流れ來たる義務あるに於てをや豈に是を忽にすべけんや然るに一旦我國漢學の流行甚だしき處より女流の文面悉く變じ昔時の美風は化して難澁停滯の漢文となり之れ以て高尙とし風流とし以て己れの學識を誇らんとする如き弊に陷り其間に於て夫を慰め父母を安んじ朋友に親情を與ふる如き美薰あらざるあり廣く無賴の徒怠慢の青年及び國家に墨泥を流すの徒をして一讀憂憤志を興へすの激文あらざるあり其れ是れを何とかせん縱ひ巧妙の結搆浮薄の男子をして驚駭せしむるも果して能く眞に愛國心盡忠の義氣をして其内に薰ぜしむべけんや又螢火の美觀あるも亦能く永遠に人を鼓舞する芬香あらんや嗚呼嘆ずべき哉願くは有志の女子幸ひに之れを銘し之を考へ各己れの文脉を改良して平易にし臨機應變敢て義務を怠らず頑老凡夫をして一目の下に感泣せしむることを務むべき也

○じやがたら文　（補）

前號に掲げ了りたる文の末に尙左の追文あり

一おたつさまへ申まゐらせ候愛もとあつき國にて候ゆへそれより少持わたりまゐらせ候をみな〳〵つかひきり候まゝひようぶきやう一かい此便にたのみまゐらせ候細く申たく候へども筆にはつくしかたく候下のうばへも申まゐらせ候ずいぶん〳〵そく才におはし候へわがみもやがて歸朝いたしたけんもじにて申事いらせたく候わら日本こひしやゆかしやなつかしや見たや〳〵

一松かさ。この手かしはのたね
杉のたね。はうきぐさのたね

ためんきん頼みまゐらせ候かへす〴〵なみだにくれてかきまゐらせ候へはしどろもどろにてよめかね申べく候まゝはやく夏のむしたのみ入候我身事今日までは異國の衣しやう一日もいたし申さず候いこくにながされ候とも何しにあらゑびすとはなれ申べしやあら日本戀しやゆかしや見たや〳〵

○正誤　五十號に掲げたる内にも。友だちは千世（七世）今は何事も皆あだことゝなりつ（なり行）。色くちはてず思へこの御こゝ（御こゝろ）故郷を出しはいつの時日よや（にや）。○五十一號に掲げたる分に。女ばら（女ばう）。遊びに出られける（候に）。かねてよりなるいらせ（存じまゐらせ）。夜はすがた（すがら）。扨々申入度（申く）。おたつ様へ申入候何ぞ（何とて）。われが一方へ文たまひ候いずとも（候はずとも）。終に至りおまつ殿へ（おたつ殿へ）の誤なり

●新報

○帝國大學英語會に於て英語討論ありたる大意の續は如左

(木内重四郎君辨論の續)世上或は說を爲す者ありて歐米近代の婦人が高等の地位を占るに至りたるは基督敎の感化に依れりと云へり然れども此說の全く誤謬あるは聖保羅の書を見て明かならん書に云く婦なる者よ主に服ふが如く己の夫に服ふべし蓋キリスト敎會の首ある如く夫ハ婦の首なれば也と又云く夫ある者よキリストの敎會を愛し給ひし如く爾曹も婦を愛すべしと諸君此聖書中に記する所を見よ婦は夫を敬し夫は婦を愛すべしとあるにあらずや蓋し夫婦間に權理權力の分爭あるべからずと云ふあり思ふに天に二日なく國に二王なし一家豈に二人の主人あるべけん故に夫もしくは婦たらんもの丶一獨り其地位を占めざる可らず聖書は則ち之を夫に與ふるものと云ふべし。此故に歐米に女權の盛んなるは敢て哲學上宗敎上の因緣に依らずして一にチウトニツク人種固有の性質より起生し來りたるものと云ふべし而して歐米の風習悉く理に合ひ吾日本の風習皆な不理なりと云ハゞ吾々は無論直ちに彼國の風習を移して吾舊俗を去るべしと雖も歐米當今の風習の中その野蠻未開の遺習ありと知られたるものを執て我國に輸入せんとするは吾々の爲し得ざると也斯る事々にも熱心に摹倣せんとするは之を鸚鵡の眞似事よりも更に卑しく且つ愧づべきの事となす鸚鵡の人聲を學ぶは敢て害なし國にして若し鸚鵡主義を行ハんにはこれ既に一國の獨立を損して大に躰面を汚がそものと云ふべし。大凡そ一國には必らず其國の歷史あり皆なそれ〴〵に固有なる事情を經過して以て特殊の風俗を造生したるものなり然るに過激の改革者は所在此樣の風俗を度外に置きて只だ外國の新風を移さんとす之を喩ふるに猶ほ角を矯めんとして牛を殺し苗を引て之を枯らす宋人の如し彼の人工を以て急激の開化を輸たさんと欲するものハ皆な遂に如此き天罰を蒙るべし金冠土足に穿つ可らず土冠金足に適せずとは蓋し之を謂ふ也

此故に余は日本女風の改良を漸綏にすべきとを熱望してかの急進の改革を惡み論者の訛ぶるが如き過激の法方を以て日本社會の安固を毒するものと認め如此き方法を主張するものを以て日本家族のダントン、ロベスピールと稱すべしと爲すもの也」と駁擊さる(未完)

○華族女學校の紀元節　去十一日は同校にて祝式を擧げられ

明宮樣にも臨御あらせられ有栖川三品宮幷に御息所及び女官宮內省勅奏任各貴婦人等御臨席にて頗る壯嚴の事にて候ひき式の大畧は左の如く見奉る（鬼頭増子報）

式の摸樣は諸新聞に出でたれば畧す此時琵琶三曲等の催しおり唱歌も亦多くありぬ今ま請ひ得たるまゝを左に掲く

大君　　高崎正風　作

おほきみの。まつらすけふは。とみやまの。ゆにはをかみも。おぼしいづらん。

橿原　　同

かしはらの。おほみやゞしら。よろづよも。うごかぬもとゐ。たてしけふはも。

扶桑の梅　　下田歌子　作

扶桑の海に浮び出し。朝日の光。さながらに。今もにほひて。日の丸に。國旗かゞやく。紀元節。

國船　　木村弦雄　作

雲に聳えし高山も。登らはおとか越ざらん。空を浸せる海原も渡らは終にわたるへし。我蜻蛉洲は茜さす。東の海のはなれ島。例へは海のたゞ中に。うかべる船にさも似たり。二萬方里の船の中。三千餘萬の乘組あり。船の主の指揮を受。文明海にすゝめゆく。水手楫取多かるに。我等も水手の一人なり。船の行手はわたの原。八重の汐路の遠けれは。颶さかまく折もあり。高波あるゝ時もあり。船手の業に習はすは。はやて高波しのぎえて。思ふ湊にいかでつくへき。

王政復古　　物集高見　作

王政復古の。そのかみを。おもへばすでし。慶應の。三とせのふゆの。十二月。九日のひを。はしめにて。都の空に。立かへる。春の光も。かきくらす。雪げの雲の。たちまちに。よはかりごもと。亂れつゝ。山ほとゝきす。鳴ころの。さつきやみには。あらねども。あやめもわかぬ。すみぞめの。くらまの山の。山彦に。ひびきどよめる大砲の。おとはあたかも。百雷の。一時に落る。ここちして。驚きさわぎ。泣さけび。老弱男女。にげまよふ。みやこの內は。さながらに。かなへのわくに。ことならず。山ゆかば。草むすかばね。海ゆかば。みづくかばねと。ことたてゝ。身をかためたる。つはものゝ。よろひの袖に。かゞやくや。星の位も三台の。かげ薄れゆく。さしぐしの。あかつきやみに。うち出す。火矢の烟にくれ竹の。伏見もみえず。白鳥の鳥羽もわかれぬ。折しもあれ。空に輝く。月と日の。錦の御旗。九重の。大內山の。山風に。飜がへしつゝ。公家御門。押ひらかせて。出たまふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〽大將軍の。仁和寺の。宮の威風に。あたりては。なびかぬ草木も。あらじとて。ふりかへりみる。ますらをが。勇氣も常に。十倍し。軍よばひも。なる神の。轟きわたる。修羅の道。切つきられつ。阿毘叫喚。宮にしたがふ。參謀のその面々は。東久世。烏丸を。はじめとし。高崎。矢守。中沼等。四條五條は。旗奉行。前後左右を。打かこむ。護衞の兵は。隼人の。薩摩長門の。壯士なり。勤王諸藩の。鋭兵が。火花をちらす。一戰は。國の安危と。片唾のむ。帷幕の内に。おく霜も。ちしほに染る。紅葉の。赤き心を。とり〳〵に。甃かさなる。しかばねは。敵か味方か。かはたれ時。踏しだきゆく。戰場の。習ひ常なき。露の身と。挿すつるぎの。束のまも。君を忘れぬ。ものゝふの。道の果こそ。あはれなれ。天地も動く。震動に。炎さかまく。淀の城。みる〳〵灰と。なり果て。空を掩ひし。黒烟。あと方もなく。消失て。旭の光。あらはれぬ。七百年の。むかしより。武門に落し。政權を。をさめたまひて。橿原の。聖の御代の古に。かへし給ひし。大御代の。のどけき春に。悦の。眉もひらけて。うちつどひ。むかしかたりと。過しよを。かたりつゝかむ。盃に。老たるかけも。かつきゆる。このうたげこそ。めでたけれ。このうたけこそめでたけれ。

○女子教育奬勵會主意書　同會の事は本誌第四十七號の附錄として記載したるが二月十日の羅馬字雜誌に此會の主意書を載せたり今之を左に譯載す

我國教育の事之を既往に顧れば維新以來實に新規改良せりと云ふべし然れども全躰に就きて之を論ずれば欠點と稱すべきもの將た無きに非ず女子教育の振はざる如きも亦其一なり夫れ社會は男女の二性よりして成立つものなれば男女互ひに和合協力して能く相ひ助くるに非んば眞の國家の隆盛は期し得べからざるなり蓋し女子に要する所は三箇の地位に立つに臨みて各能くその己を處すべきの點にあり三個の地位とは何ぞ其一は人の妻となる事其二は家政を司どる事其三は母親となる事なり然して家政を司どり母親となりて己れを處する如きは尤も專要なる教育を受けたる者に非ざれば容易に是れをよくし得べからず抑も〳〵家政を整理する事家内衞生の事家事經濟の事等に於てみなよく通曉せずばあるべからず左れば女子たる者に教育の缺くべからざる事ハ疑を入れざるべし殊に女子に教育の必要を感ずる者は其子を擧げて母親となるの時にありそも兒童の教育は學齡に達し學校に入りて修業する頃に至りて始じめて初まるものに非ず體中にある時の如きは暫らく論せず體内より出で

はじめて大氣に觸れ日光を見る時に於て早く既に初まるものなり而して襁褓の內にある時より學齡に達する迄の間受くる處の敎育は全く母親の手にあるものにて成長の後ち善良なる人物となると否とは大抵この間の敎育の良否によりて分かるゝものと云ふべし草木の尤も撓まし易きはその芽の時にあり人の尤も變化し易きは其幼時にあり學校敎育の緊要なるはもとより論を俟ずと雖も其幼時の時母親の膝下にありて善良なる敎育を受けたるにあらざる兒童をして一朝忽ち學校の敎育を受けしむるはなほ砂の上に大なる屋形を建築するが如し故に學校敎育をして果して其功を奏せしめんには母親をして善良なる敎育を授けしむるの人となさゞるべからずかゝれば女子に敎育の缺くべからざるは今更云ふを待たざるべし

然れど女子敎育の事を以て今日の急務とするの主趣は全く上に述べたる理由にのみよれりと云ふにはあらず諺に云ふ(つり合はぬは不緣の元)と凡そ男女の配偶は智識、品格、互に相適合するものをこそ選むべきなりもし然らざれば心合はざるよりして其間自然隔ての意を生じ知らず〳〵愛する心の薄きに至るものなり夫婦の關係かくの如きの有樣なるときは人間に重要なる家內常々の快樂を十分に受け得ざるのみならず兒童の敎育をはじめとして遂には社會の秩序國家の進步に迄重じき妨げを生ず可きなり今我國男女關係の有樣を見るに明治の今日にありては速かに除く可き男女疎遠夫婦隔ての陋習の如きはかへつて大に增長せんとする勢あるぞ歎げかわし何故なれば男子の敎育は日に進步を加へ月に改良に赴くも女子の敎育は依然としてもとの有樣を改めず恰も封建時代暗黑世界に棲息する如き情態を備ふるものあるを以て男子の智識增進に從て女子の有樣は隔絕する事ます〳〵遠く從て所謂る釣合を失ふものいよ〳〵甚だしくして男女の交際勢ひ疎遠に赴き夫婦の愛情自から薄くなるの外なきに至るべければなり社會男女の有樣斯の如くにしていかでか國家の隆盛をば望むべきされば今日に於ては速かに女子の敎育を起して男子の敎育と幷び馳せ男子の智識增進に相伴て常に其釣合を失ざる事を期すべきなり

女子敎育の今日に急務なるは上に陳述するが如し故に我輩今女子敎育獎勵會を設立し廣く內外同感の人〻を募り大に女子の敎育を起し將來我國の男女をして人間に受く可き幸を受けしめ兼て社會の秩序國家の進步に裨益あらん事を期

ず有志の諸君よ希くは此の擧を賛成し速かに本會に同盟して相共に力を協せ賜はん事を

○伯爵夫人の演説　去る九日京都よりの報に伊藤伯爵夫人には本日午後一時より京都尋常中學校に於て同校生徒及び上下京各小學校高等男女生徒を召集して演説あるよしとありたれば同夜は多分演説ありたるならん

○レビット夫人　同夫人一月廿四日廣東出の書狀によれば明日より香港に參り數日の後バンコクを經てシンガポールに渡り申すべし北京、天津、上海、福州、等にては禁酒主義の演説いづれも成功したるが分けて上海と福州にては最も好景氣なりし云々此頃同夫人へ宛てゝの書狀を送らるゝ方は (C/O Mrs. J. H. Thoburn, 150. Dhurrumtottah St, Calcutta,) と認むべし

○長老教派女學校合併の計畫　東京府下にある長老教會の關係さるゝ女學校には築地に四十二番女學校と女子傳道學校とあり番町に櫻井女學校あり又同教會に屬する婦人にして白銀の頌榮女學校に教授さるゝ方もあり右諸學校の女教員は近來相合併して一の大女學校を新設し且つ種〻の分科を置かんとの計畫あるよし承はる

○女學校彙報　共立女子職業學校は去十五日一ッ橋通り廿二番地の文部省官舍を借受て移轉し元獨逸人なる山崎ヲウラ夫人を教師にやとひたり。橫濱山手のフヱリス女學校に此頃入校ありたる二條公爵夫人は同校の西洋女教師と寢食を共にし一切洋風の教育を受け玉ふよし。白銀の頌榮女學校は生徒近來殊の外增加し寄宿舍新築の事を計らる。前項に記載したる彼女子教育奬勵會にて設立する大女學校は差當り資本金二十万圓を以て元と華族學校跡に校舍を新築さるゝ由。山下町十四番地に女工練習會を新設し和洋男女服裁縫編物等を教授す

○藤岡婦人會　上州藤岡町に於ては題名の如き會を設け前橋の婦人會と氣脈を通じて專ら婦人處世の要法を講習し務めて之を實行するとを目的とさるゝよし當分同町通五丁目五百九十六番地大戶てつ子方にて事務を取扱はる

○西京の女風　曩に府廳より女風改良の諭達ありたる縁來善しく變化したるうちにも京都の近傍天部下七寺裏柳原莊に住めるもと新平民など申されたる人々の婦女も今月一日より多く束髮に改めたりと云ふされば此頃同地に流行する十日の蛭子の替唄に

(三下り)「トッドなりたか束髮に、散髮に、江戶ッ子に、かねはがし、猫化きじんに、鬼娘、化物盡して大騷ぎ、洋服袴を着ておかし

特別廣告

○東京婦人矯風會記事（第二回）

●明治二十年一月十一日午後二時より赤坂榎阪町五番地教會會堂に於て小集會の順序左の如し

讃美
祈禱　湯淺はつ
演說　小崎弘道
同　佐々城豊壽
祈禱　矢嶋加知
讃美

午後四時閉會　事務六時迄
入會人名左の如し

通常會員
上田茂子　中山照子　壹岐ケイ子
仁木クマ子　加藤アサ子　瀧幡ナツ子
伊藤ワカ子　濱口ナラ子　德富ヒサ子
德富シツ子

特別會員入會左の如し
淺野道隆　佐々城本支　山中茂
淺井元光　壹岐幸存　仁木康眞

合計十六人

●明治二十年二月八日午後二時より麴町キリスト一致敎會々堂ニ於て定期會の順序左の如し

讃美
祈禱　矢島加知
聖書朗讀
演說　島田三郎
讃美

午後四時閉會
入會人名左の如し
一中村てう　一藤島のぶ　一平田しま
一加藤とし　一青木須美
合計五名

總計
通常會員　六十名
特別會員　九名

新刊

國民之友

時事評論
○皇帝陛下の西京行幸
○長崎事件
○地方制度の改良
○畝傍艦ハ何の邊に漂ふ
○國會議事堂
○二十三年の博覽會
○佛敎の末路
○商業世界の波瀾
○鐵道事業
○齊東野人の語に非ざる乎
○所得稅
○英國保守黨ノ內閣
○ボルガリヤの騷動に關する歐洲學者の意見
○歐洲の大局
○獨佛若し戰を開かば歐洲ハ如何

（毎月一回）發兌○一冊金八錢○半ヶ年六冊四十五錢○一ヶ年十二冊八拾四錢○府外壹冊ニ付郵稅一錢○宛申受ク

第一號目次

國民之友
○嗟呼國民之友生れたり
論說
○人之權理
特別寄書　ヘンリージョージ著　池本吉治譯
○國を建るの價ハ幾何ぞ　田口卯吉

雜錄
○革命前二世紀事を讀む
○新日本を讀む
○婦人の衣服
○報知新聞の外交政略
○福澤諭吉氏の社會の形勢學者の方向慶應義塾の學生に告る者の文を讀む
○矢野文雄氏地方の政友に與る意見書を讀む

廣告

東京赤阪區榎阪町五番地

發行所　民友社

日本五業新報

毎月二回發兌
定價金五錢

全國無遞送料前金の外一切配達せす○半ヶ年分（十二冊）前金五拾五錢○壹ヶ年分（廿四冊）前金壹圓

あの日本五業新報ハ本邦農業。山林。水產。工業。商業の五業に關する學術上實地上現今必要の事項を撰擇纂輯し傍ら海外諸國の五業に關する緊切の事項を撮錄したるものにて其記事を農業。山林。水產。工業。商業の五門ニ區別し各門復た論說質疑雜報。參考の四科を設きて仔細に之を分載し又別に社說の一門を設けて所謂五業の總躰に關する事項を論し特に文章ハ平易通俗を旨とし專ら讀者諸君に便するを務む故に本新報ハ即

驛遞局認可

日本全國の殖産興業に關する最も必要なる中央報告よして誓て自ら我邦勸業の針盤たらん事を期す苟も職務の此五業の範圍内にあるの諸君ハ購讀せざるを得ざる一大緊切の新報なり

（第壹號明治十九年十二月一日發行以下毎月出版）

東京京橋區三十間堀壹丁目七番地

日本五業新報社

文部省御撿定濟小學教科書

古谷傳編纂　挍正再版

日本史要

全三册

定價金五十五錢五厘

右品切の處製本出來仕候間此段廣告す

東京日本橋區西河岸町十四番地

博愛書屋

製本發賣所

賣捌

東京日本橋區通三丁目　丸善書店

同　南傳馬町一丁目　吉川半七

同　日本橋區通四丁目　牧野善兵衛

書林

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女の未來

定價三十錢（新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきことあり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進歩すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町

輿論社

（大取次）女學雜誌社

發兌

二月。	五日	十二日	十九日	廿六日
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日
四月。	二日	九日	十六日	廿三日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日

（四月は三十日も）

定價

一册。五錢　郵税。一錢　（但府内無郵税）

十册。四十八錢郵税。十錢　（同前）

半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢

一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢

同　三回以上に　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町長明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍

●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○勢州松坂家里初枝

發行所

本局　東京京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHIN-BASHI, Tôkyô.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女の未來　三十錢（新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきとあり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進歩すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町　輿論社（大取次）　女學雜誌社

[illegible]●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所　東京京橋區日吉町八番地

本局　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

日本全國の殖産興業に關する最も必要なる中央報告よして登て自ら我邦勸業の針盤たらん事を期す苟も職務の此五業の範圍内にわるの諸君ハ購讀せざるを得ざる一大緊切の新報なり
（第壹號明治十九年十二月一日發行以下毎月出版）
東京京橋區三十間堀壹丁目七番地
日本五業新報社

文部省御檢定濟小學教科書
古谷傳編纂　校正再版　定價金五十五錢五厘

日本史要　全三册

右品切の處製本出來仕候間此段廣告す
東京日本橋區西河岸町十四番地
博愛書屋

製本發賣所

賣捌書林
東京日本橋區通三丁目　丸善書店
同　南傳馬町一丁目　吉川半七
同　日本橋區通四丁目　牧野善兵衛

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女の未來

定價三十錢（新版）

近頃婦人論盛んなるよ付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきとおり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進步すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町　**輿論社**（大取次）女學雜誌社

發兌					
二月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價			
一册。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）	
十册。四十八錢	郵税。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行（廿七字詰）一回　前金拾錢
同　三回以上に　一割引
同　六回以上に　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる書籍の廣告は本社議の上無代價にて引受く女學に關係ある物は一部寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する場合にて右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町畿々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町闘々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍
●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西内大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所

東京京橋區日吉町八番地
本局　**女學雜誌社**
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY